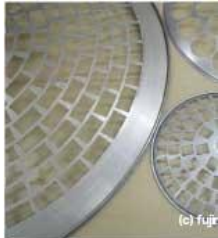


企業名	株式会社フジメカニック	金融機関名	巣鴨信用金庫
知財・事業の概要および知財ビジネス報告書作成の目的		製造業	特許・ノウハウ
光学治工具製造に係る真空薄膜形成技術、精密加工技術に関する知見を活用し半導体関連分野、工具、医療分野等へ業容拡大と収益性向上を実現した精密部品メーカーであり、今後更なる企業価値の向上と業容拡大を目指し、IPOも視野に入れた事業展開を推進するため知財ビジネス報告書の作成に取り組んだ。		 コード治具 コーティングドーム 洗浄治具	
知財ビジネス報告書への記載概要			
過去～現在 (As-Is)	知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する	光学薄膜形成用治具分野で培った真空処理技術と一貫設計・製造体制を強みに、等の大手メーカーとの取引実績を通じて高いブランド力を確立している。顧客図面を基に最適治具を提案できる技術力と、設計支援ソフト・データベースといったデジタル資産が、模倣困難な競争優位を形成している。さらに静電チャック（特許7766311）などの戦略特許や真空処理ノウハウは半導体分野展開の基盤となりえる。	
	将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する	半導体分野での信頼・ブランドが未確立であり、前工程製造装置に関する技術知見の不足に加えて、クリーン環境・微細精度・歩留まり要求への対応等に基づく高い参入障壁、先行投資負担と回収リスクを課題と整理している。解決の方向性として、成膜治具・マスク治具、検査・測定治具、ハンドリング装置といった周辺領域から段階的に参入すること。既存顧客（等）との関係を活かし、真空処理・精密加工の強みを横展開する。	
現在～将来 (To-Be)	将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する	光学薄膜分野で培った真空技術と精密加工技術を高度化し、半導体対応仕様へ適合させる。既存顧客との共同評価を通じて認定取得を進めながら、成膜・マスク・ステージ治具や検査・測定治具、ハンドリング装置領域で事業を拡大し、半導体分野の技術基盤を構築する。次に、真空チャンバー周辺部品や後工程装置部品へ展開し、装置メーカーとの連携を強化する。最終的に、装置サービス・保守・改造ビジネスへ進出し、段階的に半導体事業を成長の柱へ育成する。	
	作成を支援した機関名・氏名		
鈴木国際特許事務所 中村 昌雄			

巣鴨信用金庫からの評価結果

知財ビジネス報告書 を通じて認識した強み	改めて認識した点	光学薄膜製造用治具メーカーとして、高額機器業界におけるブランド力と豊富な取引実績を有し、顧客の高度な技術ニーズに応える提案・商品企画を迅速かつ効率的に実現するソフトウェアおよびデータベースを強みとしている。
	新たに認識した点	静電チャックに関する特許「石英ガラス製モジュールおよびその製造方法」を、事業競争力の強化に向けて有効活用している。
知財ビジネス報告書 を通じて認識した課題	改めて認識した点	光学治具メーカーとして培った技術を他分野へ活用できるかについて、社内体制も含めて検討していく必要がある。
	新たに認識した点	共同出願特許の有効な活用方法や、今後の特許戦略について検討していく必要がある。
将来のビジネス展開に 向け金融機関として サポートできる点	■ 営業店および本部一体での、ファイナンス面を含む本業サポート活動 ■ 補助金や設備投資面も含めた提案・案内 ■ 知財関係分野におけるINPITとの連携による課題へのアプローチ	

フジメカニク社からのコメント

知財ビジネス報告書の作成を通じて得られた 新たな気づきがあったか	業界に特化した自社の強みへの理解を深めるとともに、専門性の高い事業であることを再認識。併せて、今後の成長に向けた設備投資と借入のバランスについての検討余地も認識した。
知財ビジネス報告書をどう活用できそうか	営業活動における訴求材料として活用。